

# 大杉神社の夏祭り

(おおすぎじんじャのなつまつり)



神輿の渡御（谷津）

毎年7月後半になると、市域の多くの地区では、写真で見られるような大杉神社の神輿（みこし）の渡御（とぎょ）が行われていました。すでに行われなくなっている場合もありますが、同じ月の日曜日に変更されて、現在も続いている地区もあります。

大杉神社は、茨城県の桜川（稲敷市）に祀（まつ）られている神社で、アンバ様の名で広く知られています。関東・東北地方では、主として漁民や船乗りの人たちに信仰されています。また、利根川中・下流域の農民たちも広く信仰していて、各地にその末社（まっしゅ）が勧請（かんじょう）されています。また、同社へ参拝する代参講（だいさんこう）も分布しています。

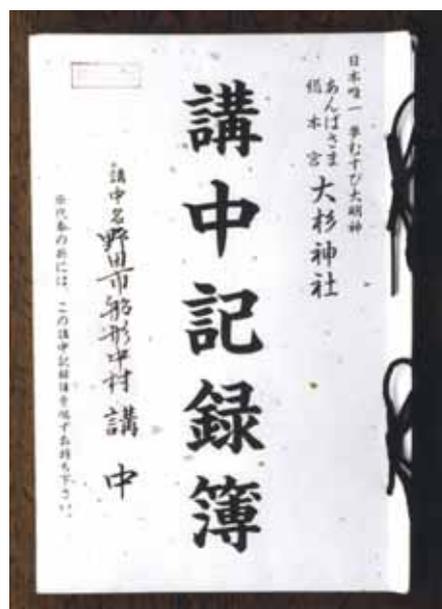
市域の民俗事例では、代参は夏祭りの前に行い、大札と小札をいただいてきます。大札は竹などにさしてムラ境に立て、辻切りを行います。地区内に悪魔や疫病などが入り込んでこないようにするためだといわれています。また、小札は講に入っている各家に配布します。

そして、ふだんは鎮守（ちんじゅ）の境内などに保管してある大きな大杉神社の神輿が出されて、若い衆らによって担がれ、地区内を廻ります。所々に神輿が休む場所が設けられ、担ぎ手の人たちに対して接待が行われます。このほかに、子ども神輿が小学生たちによって担がれる地区も多くあります。

市域で「祭り」というと、この大杉神社の夏祭りのことを思い浮かべる人が多いようです。昔は、夏季に流行病などがはやるのが時々ありましたので、大杉様の力によってそれを防いでほしいという願いから行われていた民俗です。

詳しくは...

\* 大島建彦 2005『アンバ大杉の祭り』岩田書院



講中簿（船形）

子供神輿（目吹）



辻切り（船形）



神輿渡御（清水）

